

ブリティッシュコロンビア大学

留学報告書

学部学科・研究科専攻	航空宇宙学科・航空宇宙学専攻		留学時学年	3年生
留学先	国	カナダ	大学/機関	ブリティッシュコロンビア大学
期間	2026年1月4日～2026年3月20日			
	短期	中期	長期	計 3ヶ月
※○で囲んでください。				

[1] 参加したコースの時間数と時間割

- 授業時間数： 274 時間
- 科目名（受講した科目を全てご記載ください）：EAP500(RW&SL), ASPIRE500

【時間割】

時間	月	火	水	木	金	土	日
例) 9時～13時	○	○	○	○	○	○	Free
8:30～14:45(EAP)	○	○	○	○	Free	Free	Free
9:00～15:45(ASPIRE)	○	○	○	○	○	Free	Free

[2] クラス編成や授業方法について教えてください。

- 【例】クラス人数、国籍割合、担当の先生、授業方法、使用教材等
- ・EAP 10人、日本・韓国・中国。トルコ・メキシコ、ジェームズ (RW)・デイビット (SL)、講義が中心（アカデミアへの橋渡しのような役割）、PATHWAYS (Reading, Writing, and Critical Thinking)、PATHWAYS (Listening, Speaking, and Critical Thinking)
 - ・ASPIRE 20人、日本・コロンビア (1人)、Sue・Randall、ディスカッション中心の授業です。教科書無し

[3] 課外活動や週末の過ごし方について教えてください。

週末は外出することが多かった。また、EAP の期間中は宿題が多かったので図書館で勉強することもあった。一度、UBC の書道教室に参加しました。1回5ドルで書き放題だったので多くの漢字に挑戦したことを記憶しております。また、友人宅でカラオケ大会をしたことが一番の思い出です。とてもストレスの解消に繋がりました。さらには、スキーにも挑戦しました。人生で一度も滑ったことがなかったのですが、友人3人が指導してくれました。(ありがとう) 実質的に3人のインストラクターをタダでつけることに成功し、すべての物価が高いバンクーバーで大きな節約に繋がりました。

[4] よく利用した施設について教えてください。(図書館、学生会館、スポーツ施設等)

Nest はよく利用していました。中には3ドルのピザを提供しているお店や屋上にはレストランもあって、とてもリラックスすることができました。さらに、この建物の正面には芝生のグラウンドがあり、そこではサッカー、フリスビーをしたり、昼寝をしたりしている人が多く見られました。また、週末には、ウォルターC.コーナー図書館を利用することもありました。自習スペースがあり、机も広く、コンセントも完備されていて、静かで人もあまり多くないため、集中できる環境だと思います。

[5] 宿舎(寮やホームステイ)での生活について教えてください。

部屋：1部屋 1人で使用

様子：ホストマザー、ホストブラザー2人という家族構成です。基本的に生活に関するルールはなかったです。冷蔵庫、棚にある食材はすべて食べてよかったのでいっぱい食べました。夕食はホストファミリーと他の学生と一緒に食べることが基本ですが、ホストマザーと私の2人だけの時が大半でした。その際、今日の授業は何をしたか、今日のニュースは何を見たかなどを聞かれる為、モチベーション維持に繋がりました。ホストマザーは非常に親切な方で、ELIの講師をしていたこともあり宿題を手伝ってくれることもありました。また、ホストブラザーたちとカードゲームなどをしたこともありました。

[6] 留学中に楽しかったこと、苦労したことを教えてください。

● 楽しかったこと：

授業では、ニュースを読んでグループディスカッションを行ったり、社会問題に関するプレゼンテーションを行ったりする時間が特に楽しかったです。中でも、ホームレス問題には強い関心を抱きました。また、個人主義のカナダと集団主義の日本では、価値観の重点が異なる点が非常に興味深く感じられました。そうした違いに触れる中で、自分自身の価値観が広がっていく過程が実感できたことも、大きな学びであり、とても印象に残っています。社会の構造として、誰一人取り残されず、すべての人に居場所があるという点は、非常に参考になると感じました。

● 苦労したこと：

1つ目は、休日に出かけた際の出来事です。お店で注文をする際、私は基本的に「Yes」としか答えられませんでした。そのとき、店員さんに「Anything else?」と聞かれましたが、意味が分からず、とりあえず「Yes」と答えてしまいました。当然、店員さんには意図が伝わらず、困惑させてしまいましたが、私は何度も「Yes」と繰り返してしまいました。この出来事は、自分の英語力の不足を強く実感した瞬間であります。

2つ目は、バスでの移動に関することです。多くの学生が通学にバスを利用していますが、運転が荒く感じられました。急ブレーキやカーブでもあまり減速しないことがあり、まるでアトラクションのようでした。そのため、途中でバランスを崩すことも多く、慣れるまでは苦労しました。バランスを保つためには、手すりにつかまることや、揺れを予測することが重要だと感じました。

[7] 留学の成果について教えてください

1) 語学力の向上：

リスニング力、スピーキング力は向上したと感じています。特に、ディスカッションの場面では、自分の意見をある程度相手に伝えられるようになったと実感しています。一方で、日常英会話においては、まだ改善の余地があると感じました。今後は、日本に帰国した後も日本に帰国した後も継続的に学習を続けられるかどうか、さらなる語学力向上の鍵になると考えています。

2) 専門知識の向上：

社会問題やエネルギー資源に関する知識は、留学を通して大きく向上したと感じています。特にエネルギー資源については非常に興味深く感じました。カナダは「資源大国」と言われるほど天然資源が豊富であるため、授業でも頻繁に取り上げられていました。また、エネルギー問題に関する専門的な語彙力も向上したと実感しています。近年の世界情勢を踏まえると、エネルギーと政治は密接に結びついており、こうして背景から公共政策に対する興味・関心も一層高まりました。

3) 自己成長など：

大きな変化があったわけではありませんが、人に合わせるよりも、自分らしくいることの大切さに気付くことができました。日本では、生まれたときから「人に迷惑をかけるな」と教えられる一方で、カナダでは、「自分を大切にしつつ、他人も尊重する」と教わるそうです。日本で育ってきた私にとって、カナダの価値観をすべて受け入れることは容易ではありませんでした。例えば、時間に対する感覚の違いや、LGBTQ+やドラッグに関する考え方などには戸惑いを感じました。これらの価値観については、今後も完全に理解することは難しいと感じています。

しかし、その一方で、異なる文化や価値観に直面した際には、自分なりの妥協点を見つけ、どのように折り合いをつけていくかが重要であると気づくことができました。今後、海外の人々と関わる中ですべてを受け入れるのではなく、自分の価値観を保ちながら相手を尊重する姿勢を持つことが大切であると考えています。

また、近年の国際情勢を見ると、各国のリーダーによる無責任な言動で世界に大きな影響を与えています。こうした状況だからこそ兵器ではなく対話を通じた合意点を見出す力こそが重要だと感じました。

[8] 来年度に留学を希望する学生へのアドバイスをお願いします！

2024年に私立大学へ入学した新入生の世帯年収は、平均で1005万8000円とされています。この数値は世帯年収ではありませんが、一般的な水準と比べると、比較的恵まれた家庭が多いことが分かります。また、留学を検討できるということ自体も、ある程度の経済的・教育的な余裕があることの表れだと思います。そのため、自分が置かれている環境について考えることは大切だと感じます。

[9] 留学に関する費用の総額について内訳を教えてください。

	内訳		金額 (留学時の日本円)
1	短期留学者のみ	旅行会社に支払った経費(授業料、フライト代他)	0
2	中期・長期留学者のみ	フライト代	341,165円
3	中期・長期留学者のみ	滞在費(寮費・ホームステイ代など)	617,250
4	教材費		20,000
5	保険代		30,000
6	私生活における諸経費(食費・交通費・洗濯費等)		30,000
7	個人的な買い物		100,000
8	その他()		410,000
9	留学に関する費用 (1から8の合計)		1,548,415
10	受給した奨学金(奨学金名: 国際交流奨学金)		100,000
11	留学に関する費用総額 (上記9から10を引いた額)		1,448,415

